

今週のメニュー

■トピックス

◇文具、雑貨の国際展示会を見学

－国際文具・紙製品展、ファッション雑貨・国際雑貨・販促等のEXPO－

PVC Design Award 実行委員会 事務局

■随想

◇マリ共和国旅行記（8）－時間－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇文具、雑貨の国際展示会を見学

－国際文具・紙製品展、ファッション雑貨・国際雑貨・販促等のEXPO－

PVC Design Award 実行委員会 事務局

7月4日～6日に、東京ビッグサイトでリードエグジビションジャパン(株)主催の展示会があり、現在、デザイン応募を行っている「[PVC Design Award 2012](#)」の入賞作品をビジネスに結びつける可能性を求めて、展示会場を見て回りました。

この展示会は、ISOTワールド2012として第23回国際文具・紙製品展と第4回販促EXPOの2展示会、GIFTEXワールド2012として第7回国際雑貨EXPO、第4回ベビー&キッズEXPO、第3回ファッション雑貨EXPO、第3回テーブルウェアEXPO、第1回キッチンウェアEXPO、第3回DESIGN TOKYO(東京デザイン製品展)の6展示会で構成され、東館全ホールを使用して開催されました。



出展社は、ISOTワールドが昨年の627社から800社に増え、GIFTEXワールドは昨年の678社から950社に増えています。全体の来場者総数は、主催者発表で昨年比107%増の約7万4千人の来場者で、実際に、足の踏み場もない賑やかさでした。

ISOTは、あらゆる文具・紙製品、オフィス用品が一堂に集まるアジア最大の展示会で、毎年多数の小売店・卸商が新製品、新商材をいち早く仕入れるために来場し、出展社との間で、活発な受注・商談を行われています。また本展には、量販店、ホームセンター、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、百貨店など、異業種・新業態の小売店や、法人ユーザー、海外バイヤーなどの来場が年々大幅に増えているそうです。具体的な展示品として、筆記具、事務用品、紙製品、ファイル用品、ギフト用ステーショナリー、SP用ステーショナリー、手帳・小物、ホビー・クラフト用ステーショナリー、クリスマス・年賀商材、学童用文具、OAサプライ、筆記具構成部品・材料などがありました。

[日本文具大賞 2012 のグランプリ](#)が発表され、機能部門では、アピカ(株)の「Premium C.D. NOTEBOOK」が選ばれ、デザイン部門では、(株)マークスの「デイリー・プランナー “エディット”」が選ばれました。前者は書き心地の良い紙に拘り、後者は1日1ページ手帳で60種類の表紙を持つ製品で、いずれも日本の優れた商品作りが評価されたものでした。

DESIGN TOKYO の展示では、文具、日用雑貨、スポーツ用品、家具、装飾品などの広い分野にわたる「デザイン製品」が世界中から寄せられ、東京から世界へ“売れるデザイン”を発信していました。会場の一角の「PROTO LAB」には、プロダクトデザイナーによるプロトタイプが出品され、熱心にデザインを軸にした会話が弾んでいました。

ファッション雑貨EXPOでは、アクセサリ、バッグ、革小物など、あらゆるファッション雑貨商材が、世界中から一堂に出展され、日本全国のバイヤーが仕入れ・買付けを目的に多数来場し、会場のいたるところで商談が活発に行われていました。

これらの展示を回り、日本のデザイン力と商品力の底力を感じるとともに、既に、デザイン性に優れたバッグやファッション雑貨が塩ビ素材の良さを活かして展示されていたことから、文具や日用雑貨を含めた広い分野でも、活躍の場が生まれ、ビジネスへと飛躍する機会が得られるものと期待が持てました。

現在、PVC Design Award のデザイン作品応募を行っています。その中からこの展示で注目を集める商品が生まれることを関係者一同願っています。8月20日が〆切になりますが、是非、デザインに関わる皆さんの応募をお待ちしています。

■ 随想

◇マリ共和国旅行記（8）－時間－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

各国にはそれぞれ独自の時間の進み方があります。有名な動物写真家、岩合夫妻がそれぞれ「アフリカポレポレ（岩合日出子著）」「アフリカポレポレツアー（岩合道夫著）」という本を出版し、アフリカでは時間がのんびり流れると書かれています（ポレポレはスワヒリ語で“ゆっくり”という意味）。

確かに、アフリカに来ると全てがのんびりとしています。その中でも、ここマリ共和国が一番のんびりとしているように感じます。

これまでお伝えしたように、生活環境という意味では、かなり過酷です。しかし、アクセクした感じは全くありません。治安に関しては、民族闘争という意味で若干不安はありますが、個人としてみた場合、非常に人懐っこく、穏やかな国民です。現状を受け入れることに慣れてしまっているからでしょうか。



カメラの前で、はいポーズ！

フランスの支配が長かったこともあり外国人に慣れているせいか、一部のアフリカの国であるような、外国人を宇宙人を見るように見ることもありません。

人々の歩く速度、立ち居振る舞い、どれも日本の感覚からすればとてもスローですが、心地よい速度です。

基本的にアフリカ人は日本人の歩く速度と比べ、足腰の鍛え方が違うこともあり平均的に早いことがほとんどです。エチオピアの人などピョンピョン飛び跳ねるように行ってしまう。ところが、マリ共和国では、日本では普通の速さで歩いていても、何でそんなに急いで歩いているの？ 急用？ と声を掛けられてしまいます。

お店に入っても、店員さんがサボっているわけでもなく、動きがゆっくりしています。

ゆっくりと言えば、鉄道もゆっくり。路線はセネガルの首都ダカールとマリ共和国のバマコを經由シクリコロを結ぶ1路線のみ。確かに運行本数も少なく1日に4本ほどしか運行されていません。

このため、線路上は列車が来ないときはヤギやヒツジの放牧場であり、市場であり、道路でもあります。列車は線路上のこれらの障害物にぶつからないよう、遠くから汽笛を鳴らしながらやってきます。

アジアなどでも同様の場所がありますが、ここでは列車が来ることが分かると、皆一斉に移動します。しかし、マリ共和国では移動ものんびり。むしろ、移動するまで列車の方が待つのが当たり前。運転手さんもそれを分かっているため、ヤギやヒツジが退くまでのんびりと待っています。

セネガルの首都ダカールから終点のクリコロまでの距離は1,287Km。この間を29時間かけて走ります。日本では東京と博多の距離が1,175Km。新幹線の所要時間は4時間55分。高速バスの所要時間は14時間20分。高速鉄道や高速バスと比べるのもおかしいですが、いかにのんびり走っているかが分かります。

原付バイクもゆっくり走っています。子どもたちがこいでいる自転車より遅い人もいます。ところが、一度自動車のハンドルを握ると性格が変わります。アクセル全開で走り始めます。このため、舗装、未舗装にかかわらず、速度が出せないように道路にバンプと呼ばれる突起があります。日本でも一部の地域で速度を落とすため道路に突起があるところがありますが、マリ共和国の突起は直前で一旦停止し、ソロソロと乗り越えないと車がジャンプするか車体に激突し、車が壊れるほどの高さがあります。こうまでしないと速度を落とさないのでしょうか？

自動車専用道路になるとこのバンプもありません。ということは、自動車専用道路＝自分の車の性能を試すテストコースのようなものです。それはもう飛ばします。ほとんどがボロボロの中古ですからバックミラーをはじめ、部品がバラバラと外れ、飛んできます。

最初は何でこんなにフロントガラスが割れている車が多いのだろうと思いました。それも、ひびが入るといようなものではなく、明らかに硬い大きなものが正面から突っ込んできたという割れ方です。さすがにマリ共和国では自分で運転はしていませんが、最初は助手席に乗っていましたが、前から飛んでくる障害物で命の危険を感じたので、後部座席、それも運転手の後ろ側に席を移りました (;^_^A アセアセ…

全体的にのんびりとしたマリ共和国ですが、砂漠地帯では日中の気温が40度を超えることも普通です。暑さと乾燥が重なり、体力的にも長時間の作業はできません。夜は電気

があるとはいえ、煌々と照明を付けるわけにもいかず、早寝早起きの健康的な生活です。

しかし、日本などと比べると生産性はどうしても低くなります。よく、生産性が低いのは怠け者の証拠、という人がいますが、そのような考えを持つ人にはぜひ、マリ共和国に来てもらいたいものです。人間の体力には限界があり、こちらの暮らしは毎日その限界に近い暮らしです。もし、これ以上の速さで生活をしなさいということは、早く死になさいということに近いかもしれません。

マリ共和国はこの先も、多少の変化はあるのですが、時間の流れはこのままゆったり流れていくのだろうと思います。

(つづく)

前回：[「マリ共和国旅行記」\(7\) -環境問題-](#)

■ 編集後記

突然ですが、高島屋の紙袋と言えばバラの模様ですが、日本橋高島屋では高島屋自体の建物のイラストになっています。

日本橋高島屋の建物と言えば歴史があり、内部の壁に化石が見られたりすることで知られていますね。実際、重要文化財に指定されているそうです。

先日、その日本橋高島屋の外壁保存修理工事が始まりました。徐々に足場が組み白シートが張られていき、そろそろ全体が覆われるなと思っていた、ある朝、見上げてびっくり！そこにはど〜んと『高島屋』がありました。種明かしは、写真のように建物を覆ったシートの前面に紙袋と同じ高島屋のイラストが描かれていたのです。日本橋の交差点に巨大な高島屋の紙袋が置いてあるみたいで楽しい気分になりますね。

ところで、このシート、きれいに印刷できるということは、塩ビターポリンかな？(漠)



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp